STAI と情動特性

プルチックのEPIを用いて

齊木久代

(聖和短期大学保育科)

キーワード: 情動 不安 特性

STAI and Emotional Traits

Hisayo SAIKI

(Seiwa Junior College)

Key Words: Emotions, Anxiety, Traits

目 的

先の研究(齊木, 2011)では、保育者養成校在籍者の保育実習中の不安得点(STAI)、実習前後の体験評価(“楽しさ”、“効力感”)、および学業成績(“知識の習得”、“原理の理解”)との関連について検討した。この結果、特性不安の高さが実習に対する“効力感”を抑制する傾向のあることが示唆された。本報告では、さらに、特性不安の背後にある情動行動の差異に注目して、同一群にプルチックのEPI (Emotions Profile Index: 松山・浜, 1974)を施行した結果を分析する。

方 法

調査対象者: 兵庫県内の私立S短期大学保育科女子125名
 手続き: 2年次4月から6月にかけて調査校では、幼稚園、保育所を対象とした各3週間の教育、保育実習が通常授業を挟んで実施される。この通常授業時に、不安尺度(STAI)とEPI、ならびに1回目の「実習は楽しかったか」「楽しさ」、「実習はよく出来たと思うか」「効力感」等を問うアンケートを実施した。

結果と考察

表1は、EPIの8個の情動尺度得点と状態不安、特性不安得点と実習に対する“楽しさ”、“効力感”、とのピアソン積率相関係数をまとめたものである。特性不安に対して、“驚き”が負の、“悲しみ”が正の有意な相関を示した。また、効力感に対しては、“喜び”が正の、“恐れ”と“悲しみ”が負の有意な相関を示した。

特性不安得点と効力感の得点について、それぞれ平均より1標準偏差高い者を高群、低い者を低群、その間の得点者を中群として、EPIの8個の情動得点とバイアス得点における群間の平均値について分散分析を行った。この結果、特性不安得点の群間では、“受容”“悲しみ”“怒り”“喜び”において、有意な効果が認められた。また、効力感では、“恐れ”“悲しみ”“喜び”において有意な効果があった。

表1 項目間のピアソン積率相関係数

	受容	驚き	恐れ	悲しみ	嫌悪	期待	怒り	喜び	バイアス
効力感	.124	.060	-.185*	-.215*	.090	-.096	-.057	.256**	.069
楽しさ	.039	.103	-.074	-.076	-.043	.002	-.058	.081	.071
状態不安	-.008	-.116	.097	.148	-.106	.069	-.071	-.001	.035
特性不安	-.175	-.199*	.103	.312**	.023	.073	.100	-.146	-.178*

** $p < .01$ * $p < .05$

図1は、特性不安得点の群別に、EPIの8情動得点を図示したものである。低得点群が有意に高い“受容”“喜び”を示し、一方、“悲しみ”“怒り”は有意に低い。

図2は、効力感得点の群別に、EPIの8情動得点を図示したものである。高得点群が有意に高い“喜び”を示し、一方、“悲しみ”“恐れ”は有意に低かった。

今後、さらに、基本情動間の関わりも考慮した分析を行いたいと考える。

引用文献

松山義則・浜 治世 1974 感情心理学 第1巻 感情と情動—理論と臨床— 誠信書房
 齊木久代 2011 実習を“楽しく”感じられることと学業成績、不安得点との関連 日本教育心理学会第53回総会発表論文集

図1 特性不安得点群別のEPIの8情動得点

図2 効力感得点群別のEPIの8情動得点